2012年5月号 第87号 毎月1日発行

シリーズ 第24回

中谷の南朝秘史③

―藤房の墓―

前回お話しした近衛経忠公の墓所とされる「近衛殿」から約50m北の水田の傍らに、「藤房公墓碑銘」と刻まれた石碑が建てられています。

藤房公とは、南北朝時代の公家である万里小路（藤原）藤房のことです。藤房は後醍醐天皇に仕え、建武の新政後には中納言に昇進しますが、まもなく出家しその後の消息は不明です。後醍醐天皇に建武の新政の誤りを直言したといわれ、その強い意志を持って天皇に仕えていた姿勢から、江戸時代以降は平重盛（平清盛の長男）・楠木正成と共に「日本三忠臣」として評価された人物でもあります。

藤房公墓碑銘（中谷）

近衛経忠公が亡くなった後、中谷を訪れた藤房は経忠公の死去を知り、この地に小庵を結び南朝の武運と経忠公らの菩提を弔い、亡くなったと中谷では伝えられています。

明治十八年（一八八五）、村の人がこの地を開墾していたところ、地中から藤房の名前が刻まれた石と副葬されていた遺物が見つかったことから、この墓が万里小路藤房の墓で間違いないとされ、明治二十四年（一八九一）に石碑が建立されました。

明治三十五年（一九〇二）、美作の考古学研究者、光井清三郎氏が当時存命していた墓の発見者から聞き取りを行い、翌年、研究誌『考古界』に発表しています。それによると土中から見つかったのは直刀・勾玉・須恵器と陶棺であったようで、これは藤房の時代より約八〇〇年古い古墳時代後期頃の埋葬形態であり、光井氏の記録には藤房の名前の墓碑については書かれておらず、おそらくは存在しなかったと思われます。光井氏は「これを藤房公の墓と見立てようとするほど考古学的知識が広まっていないことは嘆かわしい」と記しています。

中谷神社の柄鏡　（右）鏡面の銘文

こうした藤房の墓発見・顕彰の動きの背景には、明治時代の天皇親政運動などが影響したと考えられ、中谷でも近衛経忠公の伝説に三忠臣の一人である藤房を加えることで、村内の気運を高めるきっかけとしたのかもしれません。

ただ、根拠もなく藤房の伝説が作られたのではないようで、中谷神社には南朝年号の興国四年（一三四三）の年号をもつ柄鏡もあります。鏡面には天皇の世が長く続くことと、藤房の祖父や父の名が刻まれ、その冥福と福寿を不二行者授翁という人物が祈っていることがわかります。「不二行者授翁」とは藤房の出家後の名前といわれ、没年は不詳ですが、晩年は妙心寺（京都市）の二世住持であったという説をはじめ、愛知、滋賀、茨城、秋田など各地に藤房の墓が存在します。

愛知県の藤房の墓（西尾市・養林寺）

柄鏡が直接藤房との関係を示すものであるかどうかは、今後研究を重ねる必要がありますが、中谷の人々が古くからの伝説を、誇りをもって伝えてきたという思いは受け継いでいかなければなりません。

滋賀県の藤房の墓（湖南市・妙感寺）

参考資料：『鏡野町の文化財』、『国史大事典』、『南朝の忠臣万里小路藤房』、『中谷神社所有「菊花凹面鏡」と南朝伝承の形成について』

お問い合せ先
生涯学習課　日下
電話（0868）54-7733

〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/